

開発・研究

私のコロナウイルス対策日記より(2) 「COVID-19の診療と後遺症の診療を 両方行なった経験から見えてきた いくつかの仮説」

東京ファッションタウンビルクリニック(有明3丁目)

最上 聡

【2022年5月31日の日記より】
当院は発熱患者さんは全員診察することになっている。(検査予約は必要)

そのためにPCR検査も含めて院内で検査を行なってきた。

当初はSARS-CoV-2陽性の患者さんがメインだったが、最近は後遺症の患者さんが増えてきた。

これまでCOVID-19の診療と後遺症の診療を両方行なってきた結果、罹患中にどんな治療を行なったかで後遺症の発症状況が大きく異なると考えられた。罹患中にきちんと治療するとME/CFSをはじめ後遺症の発症を回避できるように思う。

両方の治療を行なって得られた仮説として、

- ①後遺症の診療は罹患中から始まっている？(その時点からきちんと治療すればME/CFSなど後遺症が発症しない？)
- ②罹患中にステロイド治療を行なった例では後遺症発症が少ない？
- ③罹患中に抗ウイルス薬による治療を行なった例では後遺症発症が少ない？

④罹患中にアジスロマイシンを投与した例では後遺症発症が少ない？(前記事に記載の2021年12月20日のブログ記事)

⑤ステロイドは少量長期間内服するよりも必要な時に大量短期間内服するほうが後遺症発症が少ない？

COVID-19陽性となった罹患患者で、内服治療に同意してくれた医療従事者を中心とする希望者とその家族に対して行なった治療の結果、全員が後遺症なく治癒したことからの仮説を立てた。

もちろん後遺症には自律神経系をターゲットとする自己免疫機序やサイトカインストームによる機序など多数のプロセスがあるので治療効果は一律ではない。サイトカインストームによる全身臓器障害後の後遺症発症機序としては

- ①全身臓器における組織の破壊によるもの
- ②全身臓器における生理機能の破壊によるもの
- ③全身臓器における生理機能の破壊に
が考えられ、②は凝固機能やミトコン

ドリアにおける酸素呼吸機能も含まれる(それゆえ凝固異常もATP枯渇も起こりうる)。

ミトコンドリア機能障害については、ミトコンドリア病の分類としてメーブルシロップ尿症やピアンソン病、MELASなど現時点で67疾患が判明しており(<https://koinobori-mito.jp/mito-disease-list/>)、ミトコンドリア機能どの機能が障害されているかが特定できれば、その欠損物質を投与すれば劇的に改善するはず。

たとえば、コエンザイムQ10欠乏症の病態であればコエンザイムQ10を投与することで改善が期待される。

将来的に、COVID-19後遺症としてのME/CFSにおいて障害されている機能が特定できると効果的な治療の可能性が出てくると期待している。

後遺症治療は罹患中から開始したい。そのためには基礎疾患の有無によらず、みんなに投与可能な抗ウイルス薬が不可欠。

【2022年6月10日の日記より】

「病態から見たCOVID・19各ステージにおける後遺症診療」についてまとめてみた。

あくまでも個人的な仮説でしかないが、後遺症についても早期治療は不可欠と考えている。

Stage I「非感染期」

マスク、ソーシャルディスタンスでSARS-CoV-2の感染を予防する。

これにより

①SARS-CoV-2感染予防

②COVID・19発病予防

③COVID・19に続発する後遺症発症予防

この3つを同時に実現する。

この段階から後遺症予防も視野に入れて考えると、マスクの意味が理解されやすいかもしれない。

経鼻タイプのワクチンはこの段階から作用するため「非感染期における感染予防および後遺症予防」の一環と位置付けられる。

Stage II「感染後非発病期(濃厚接触時)」

抗ウイルス作用のある薬剤により体内でのウイルス増殖を早期に抑制する。

これにより、

①COVID・19発病予防

②COVID・19に続発する後遺症発症予防

この2つを同時に実現する。

注射タイプのワクチンはこの段階で作用するため「感染後の発病予防および後遺症予防」の一環と位置付けられる。

基礎疾患などの制限なくみんなが早期に内服可能な抗ウイルス薬の存在がとても重要。

Stage III「COVID・19発病後(罹患期)」

COVID・19が発病してしまった

場合、内在する臓器障害の病態に対応して抗サイトカイン薬、抗ウイルス薬、ステロイドにより後遺症治療も開始する。

罹患中からすでに後遺症病態が存在していると考えられるため、この段階での治療は後遺症早期治療と位置付けられる。

とくにミトコンドリア機能障害の病態に対して治療開始が遅れると後遺症としてのME/CF/S発症リスクが高まると考える。

Stage IV「後遺症期」

COVID・19治癒後に後遺症が発症してしまっただけからは次の①②③により治療を行なう。

①後遺症機能障害発現の原因となっている組織障害の修復プロセスを促進する治療

↓とくに神経系障害の修復プロセスには年単位の時間がかかる。

②後遺症機能障害進行の原因となっている組織炎症の抑制プロセスを促進する治療

↓脳内にも持続性神経炎症の存在が明らかになっている。

③組織修復期間中のQOL向上のための対症療法による治療

↓各種漢方製剤、非ステロイド消炎鎮痛薬、抗うつ薬などもQOL上でも重要。

まだまだ研究が始まったばかりだが、COVID・19の治療と同様に、COVID・19後遺症の治療についても一刻も早く治療開始することが、後遺症に悩む人をひとりでも少なくするためにとても大事と考えている。